

甲7-7



環境ニュース | ニュース | マネー | 日経ヴェリタス | IR | IT | 経営 | エコ | 住まい | 生活・グルメ | 教育 | 就職 | 求人

NIKKI NET ニュース マネー 日経ヴェリタス IR IT 経営 エコ 住まい 生活・グルメ 教育 就職 求人

トップ 環境ニュース 連載コラム インタビュー エコ経営 エコプロダクツ

小宮山宏・三菱総研理事長(前東大総長)に聞く  
「知の構造化」で温暖化懐疑論に終止符を



小宮山宏(こみやま・ひろし) 三菱総研理事長、前東京大学総長  
1967年東京大学工学部化学工学科卒。72年同大工学博士。2000年同大工学部長。2005年総長に就任。2009年4月から現職。専門分野は化学システム工学、地球環境工学。主な著書に「地球持続の技術」(99年、岩波書店)、「東大のこと教えます」(2007年、プレジデント社)など

東京大学の総長として4年間、「行動する大学」をスローガンに大学改革の陣頭指揮を執り、4月に三菱総研理事長に就任した小宮山宏さん。専門の地球環境分野での発言も活発で「温暖化懐疑論が問題になっているのは日本だけ」「GDPが影響を受けるといった議論はデタラメだ」と、煮え切らない日本の環境への取り組みに喝を入れる。解決には「知の構造化」が不可欠と訴える小宮山さんに、低炭素社会のビジョンを聞いた。

■知の爆発で生まれた懐疑論

——地球温暖化のような複雑な問題に立ち向かうには「知の構造化」が欠かせないと主張されていますね

私たちは「知の爆発」の時代に生きています。知識が爆発的に増えた結果、逆にその知をうまく使いこなせなくなっているんです。ジグソーパズルのピース(知識の断片)を集めて全体像を描く作業を誰かがしなきゃいけない。それを「知の構造化」と呼んでいます。いくらグーグルが便利といっても、パズルを組み立ててはくれないんです。

——具体的にはどのような取り組みですか

たとえば、2007年ノーベル賞を受賞したIPCC(気候変動に関する政府間パネル)こそ、その典型です。世界中の2万におよぶ科学者の論文を読み込んで評価をし、結論を出す作業はすさまじいものです。

「地球の温度は上がっている」というコンセンサスを得ることひとつとっても、大変な議論です。東京のような都市と海やエベレストなど様々な環境があるのに、その平均温度をどう出すのか。宇宙から見ると、地球という星全体の温度は15度と一定に保たれています。バランスを取るために、地表や成層圏など、ある場所が上がればある場所は下がるので、一部だけを見れば「温暖化していない」という言い方もできるのです。

——「温暖化はウソだ」といった懐疑論も鳴り止みませんね

地球温暖化に関する懐疑論は、海外ではほとんど問題になっていないんです。ダボス会議などの国際会議の場でも、もはや温暖化の事実を前提に「どう対応していこうか」という話し合いしかされていませんよ。日本では懐疑論の本が非常に売れていて、テレビなどでも話題に上っていますが、不思議で仕方ありません。

確かに、「5%の懐疑論」があることは事実です。IPCCも温暖化の人為的影響について「Very Likely」という表現を使っているわけで、温暖化を100%確証されたとしているわけじゃない。でも、人間活動による温暖化を認めているのが95%と大勢を占めているということは、早く認めないといけないと思います。

懐疑論者は「温度の補正が不十分」とか「温暖化の原因は水蒸気」とか「太陽の活動が活発になれば温暖化する」などと指摘しています。しかしそういったことを科学者たちが考えていないはずがないじゃないですか。全部わかった上での話をしているわけです。

すべてについて反論は用意されているので、彼らがIPCCの報告書をちゃんと読んでないのは明確ですよ。少なくとも識者の間では、温暖化の認識は一致していると思っています。

——議論は収束するでしょうか

言おうと思えば何でもいえるんです。まるでゲリラ戦ですよ。でも、こういった議論はもう打ち止めにしたい。

私が代表を務めるIR3Sという、大学研究機関をネットワークした組織で、懐疑論に反論する本を5月(予定)に出版します。東北大の明日香壽川教授、住明正教授が中心となって、きちんと反論しています。



——行動に移さなければいけないということですね

5%の不確実性があっても前に進まないといけない。なぜなら、人間の知識というのはなんでも、「絶

<http://eco.nikkei.co.jp/interview/article.aspx?id=MMECi1000006042>